

会 議 録

会議の名称	令和4年度第4回川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 子ども・子育て会議
開催日時	令和5年2月2日(木) 午前10時00分 開会 ・午前11時35分 閉会
開催場所	川越市役所 本庁舎7階 第1・第5委員会室
議長(委員長・会長)氏名	平野方紹会長
委員出欠状況	出席：14名 平野会長、鈴木副会長、川口委員、片野委員、高倉委員、小寺委員、大木委員、山田誠次委員、山本委員、浅見委員、長峰委員、岡野委員、伊藤委員、圓岡委員 欠席：6名 宮島委員、山田紀子委員、石川委員、田村委員、崎委員、三谷委員
傍聴人	0人
事務局職員職名	別添「第4回子ども・子育て会議事務局職員名簿」のとおり
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 議題 (1) 第2期川越市子ども・子育て支援事業計画の中間年見直しについて 4 その他 5 閉会

配布資料	<p>(別添のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・「第2期川越市子ども・子育て支援事業計画【中間年見直し版】」(原案)に対する意見公募手続きの結果について・・・(資料1) ・第2期川越市子ども・子育て支援事業計画【中間年見直し版】(案)・・・(資料2) ・付帯意見・・・(資料3) ・第2期計画中間年見直しに係る諮問と答申について・・・(資料4) ・市長からの諮問に対する検討結果について(報告)(案)・・・(資料5) ・第2期川越市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて(答申)(案)・・・(資料6) ・毎日の生活についてのアンケート調査(児童生徒向けヤングケアラー実態調査)報告書(案)・・・(当日配付資料) ・第4回子ども・子育て会議 事務局職員名簿
会議要旨	<p>3 議題</p> <p>(1) 第2期川越市子ども・子育て支援事業計画の中間年見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見公募の結果について報告し、意見による原案の修正はないものとして整理した旨説明を行った。 ・分科会における諮問・答申の流れを確認し、本案をもって社会福祉審議会委員長へ検討結果の報告をすることが可決された。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年9月から10月にかけて実施した「毎日の生活についてのアンケート調査(児童生徒向けヤングケアラー実態調査)」の結果について報告した。 ・今回の会議をもって、現任期中の会議はすべて終了となる。次回の分科会は委員改選の手続き等もあり、時期は未定となっている。

議 事 の 経 過									
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項								
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>本資料では以下のように表記する。 川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 (川越市子ども・子育て会議) 分科会</p> <p>3 議題 [議題(1)] 第2期川越市子ども・子育て支援事業計画の中間年見直しについて 事務局より資料1から6に沿って説明。 内容は以下のとおり。 【事務局説明概要】 (資料1) 意見公募の結果、3件の意見が寄せられた。意見の概要は次のとおり。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #4a7ebb; color: white;"> <th style="text-align: left;">No.</th> <th style="text-align: left;">意見の概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・給食費を無料にしてほしい。 ・働いていない家庭でも学童の利用ができるようにしてほしい。 ・学区境の家の子は通学する学校を柔軟に選べるようにしてほしい。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童は全体の地域を見て判断してほしい。 ・保育園の建て替えについても全体のバランスを見て予定地を考えてほしい。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「川越市教職員研修事業」の研修内容はどのようなものか。 ・教職員の研修項目に真の健康とはどういうことかを加えてほしい。 ・新型コロナ感染予防対策の緩和を進め、教職員が理解していけるように研修を行ってほしい。 ・不登校の原因究明と対策を行い、不登校を減らす取り組みを進めてほしい。 ・どうしても通えない子どものための対策として、フリースクールへの助成や支援を考えてほしい。 ・発達障害ということ自体、なぜなのか原因を考え、様々な対策を行ってほしい。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>上記3件の意見については、中間年見直しの内容に直接影響のある意見ではないことから、原案の修正はないものとして整理した。</p>	No.	意見の概要	1	<ul style="list-style-type: none"> ・給食費を無料にしてほしい。 ・働いていない家庭でも学童の利用ができるようにしてほしい。 ・学区境の家の子は通学する学校を柔軟に選べるようにしてほしい。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・待機児童は全体の地域を見て判断してほしい。 ・保育園の建て替えについても全体のバランスを見て予定地を考えてほしい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「川越市教職員研修事業」の研修内容はどのようなものか。 ・教職員の研修項目に真の健康とはどういうことかを加えてほしい。 ・新型コロナ感染予防対策の緩和を進め、教職員が理解していけるように研修を行ってほしい。 ・不登校の原因究明と対策を行い、不登校を減らす取り組みを進めてほしい。 ・どうしても通えない子どものための対策として、フリースクールへの助成や支援を考えてほしい。 ・発達障害ということ自体、なぜなのか原因を考え、様々な対策を行ってほしい。
No.	意見の概要								
1	<ul style="list-style-type: none"> ・給食費を無料にしてほしい。 ・働いていない家庭でも学童の利用ができるようにしてほしい。 ・学区境の家の子は通学する学校を柔軟に選べるようにしてほしい。 								
2	<ul style="list-style-type: none"> ・待機児童は全体の地域を見て判断してほしい。 ・保育園の建て替えについても全体のバランスを見て予定地を考えてほしい。 								
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「川越市教職員研修事業」の研修内容はどのようなものか。 ・教職員の研修項目に真の健康とはどういうことかを加えてほしい。 ・新型コロナ感染予防対策の緩和を進め、教職員が理解していけるように研修を行ってほしい。 ・不登校の原因究明と対策を行い、不登校を減らす取り組みを進めてほしい。 ・どうしても通えない子どものための対策として、フリースクールへの助成や支援を考えてほしい。 ・発達障害ということ自体、なぜなのか原因を考え、様々な対策を行ってほしい。 								

	<p>(資料2)</p> <p>基本的に原案どおりの内容となっているが、以下の点を修正した。 p22「こども家庭センターの検討」から「の検討」の部分削除</p> <p>(資料3)</p> <p>今回の中間年見直しに直接関係する内容ではないものの、審議過程で委員からいただいた以下6つの意見は付帯意見としてまとめた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもを産み育てやすい街と思われるような情報の発信に努めること。 2 若者への支援策を講じること。 3 保育の質を高めるための具体的な検討に着手すること。 4 新規事業に必要な予算と人員を投じ、市民にとって利用しやすい事業となるよう努めること。 5 児童福祉法等の一部を改正する法律(令和4年法律第66号)を契機に、子育て世帯が安心して暮らせるための対策を積極的に講じること。 6 保育ステーション事業は、適切なニーズ把握に努めるとともに、必要に応じて事業の見直しも検討すること。 <p>(資料4、5、6)</p> <p>分科会での諮問・答申の流れを確認した。</p> <p>本日答申案を取りまとめ、分科会会長から社会福祉審議会委員長に検討結果の報告を行い、それを受けて社会福祉審議会委員長から市長へ答申を行う。</p> <p>【討論内容】</p> <p>事務局から説明のあった内容について、何か意見や質問等あるか。</p> <p>(特になし)</p> <p>では、本案をもって、社会福祉審議会委員長に検討結果の報告を行うこととしてよろしいか。</p> <p>異議なし。</p> <p>それでは、本案をもって検討結果の報告を行うこととする。 本日で、今期最後の会議となるため、各委員から一言ずつご意見をいただきたい。</p>
会長	
委員	
会長	
委員	
会長	

岡野委員	<p>普段は妊産婦を対象に保健指導などを行っている。自分の子どもは3人いるが、幼稚園に入れていたため、保育園についての話は知らない部分が多かった。委員の意見を付帯意見としてまとめてくれたことや、公立保育所のあり方の議論の際に、4名の委員が会議前に話し合いして議論を引っ張っていただいたことは本当に勉強になり、感謝もしている。</p> <p>私は社会の中で一番小さな団体である家庭のそばにいる仕事をしているが、こういった話し合いの場は本当に大事なことだと思う。一番小さな団体である家庭が居心地のいい場所、家族みんなが帰りたくなる場所であることの大事さを日々感じている。こちらの会議も男性の方が多いので、ご家庭のご両親、奥様やお子さんに対して、ご家庭の中で自分がどうあれば家族が居心地がよくなるのか日々考えながら接していただけると、家庭もよくなり、それが向こう三軒両隣、近所の人まで気にする人が1人でも増えれば、川越市は子育てしやすい市になっていくのではないかと感じている。</p>
山本委員	<p>子ども・子育て支援新制度になってから、幼稚園は私学助成園と新制度園と2つの形態に分かれている。形態によって管轄が県なのか市なのか異なり、扱いが変わってくる。例えばICT補助金なども新制度園は満額出るが、私学助成園だと4分の1カットされる。子どもを同じように扱っていても、管轄が違うだけで待遇が異なる。それを受けておそらく国の方はこども家庭庁を創設して、子ども・子育てに対して文科省管轄だから、厚労省管轄だからといった縦割の弊害をなくし、公平平等に扱うことを考えているのではないかと考えている。令和6年の4月から市でもこども家庭センターを設置するといった話にもなっている。今後、園の形態によって扱いを変えるのではなく、子どもを育てる保護者も含めて公平平等に手当や補助支援があるべきだと考えている。</p> <p>また、国で少子化対策が盛り上がってきている。子ども・子育て支援新制度は女性が働かないと輝けない話の中でスタートしている。実際に育児と家事は全く別物だが、家庭にいるというのは家事と育児の両方をしているのであって、その大変さというものが全く外に見られない。関わった人でないとわからない。こういったことに目を向けて、依存心が強いのが幼児期の子どもたちなので、安心できる大人と一緒に過ごせる環境、それと少しずつ外に出ていく環境をつくっていく必要がある。就学後、小学校と中学校が一番大勢の子どもたちを抱えている。福祉が充実して初めて教育にもしっかり行き渡ると思うので、教育と福祉と家庭としっかりと連携する中での子育てを見ていく必要があると思う。ここで関係各所の方々といろんな情報交換ができた</p>

大木委員	<p>ことはありがたかった。</p> <p>この会議で色々な意見を聞くことができ大変勉強になった。</p> <p>地域の子育てサロンでは、このコロナ禍で家に閉じこもっていて、初めて他の人と会って話をしたというお子さんや保護者の方もいる。大変な世の中だったと思う。</p> <p>また、家族が孤立してしまっていて、マニュアル本どおりにいかないと納得できない、とても神経質になっている保護者の方や、子育てをどうすればいいかわからないという方も増えてきている。私たち主任児童委員は有資格者ではなく、民生委員と連携して地域に根ざして支援の必要な家庭に気づき、必要な機関に繋げていく活動をしている。子育てサロンに来る方はいいが、来ない方をどうやって発見して繋いでいくかが課題となっている。</p> <p>主任児童委員は主に0歳から18歳までのお子さんと保護者の方を支援するために任命を受けているが、民生委員と各機関と仲介役という立場のため、なかなか世の中に知れ渡ることがなく、学校の先生方にも主任児童委員とは何なのかと言われてしまうことが多い。啓発活動が必要だと思っている。</p> <p>今後も各関係機関の方々、学校、幼稚園や保育園の方々とも連携をして活動していくので、活用していただけるとありがたい。</p>
高倉委員	<p>色々な要因があるかと思うが、今は本当に子育てが難しく、子育てが本当に大変になっている状況にあり、皆さん苦労している。そこがまた少子化の要因の一つだと思う。川越市だけでなく、日本中が少子化で先行きが見えなくなっている。</p> <p>子どもは社会の宝だと言われているが、経済的にどの自治体も、国も逼迫している。どこにお金を配分するのか、その優先順位の一番になかなか子育てあるいは福祉が来ない。</p> <p>そういう中で子育てに不安を抱く人が多くなり、少子化が進んでいる。この2年間、保育所のあり方も含めて一緒に検討させていただき、今回の付帯意見には会長の思いがすごくこもっていると思う。やはり、子どもを産むことが楽しみであったり、育てることが楽しみであったり、先に期待が持てる、そういう地域であることが、やはり子どもが増えていくことだと思う。ただ、やはり財政的に制限がある中で、どう割り振っていくのか。夢を描くのは簡単だが、実現可能な提案がどんなことなのか、そうした点でこの会はとても苦労したなというのが正直な感想である。</p> <p>今回、私達が知恵を絞ったこの見直しですが、ぜひ今後の川越市の市政に反映され、結果として、子どもが少しでも増えていき、川越で子育てをしたいと思う家庭が増えることを期待している。</p>

片野委員	<p>この分科会で他の委員の意見を聞きことができ、大変参考になり、また、勉強させていただく機会となった。</p> <p>私は社会教育委員も務めており、そちらでは社会教育、家庭教育について議論が行われている。こちらの子ども・子育て支援とあわせて、家庭の保護者への教育、また、社会全体で子ども達を見守り育てていくという形をとっていければいいと思う。</p> <p>再来週から川越市議会の3月議会が始まる。こども家庭庁の設置に伴って様々な制度改正や、条例改正等の議案が提案されてくる予定になっている。</p> <p>ここで聞かせていただいたこと、議会の場でより市政に反映できるように、取り組んでいければと思っている。</p>
川口委員	<p>生活相談や知人等から少子化対策はお金ではないという話を聞いている。東京都のように手当を支給することは子育ての役には立つと思うが、現金給付よりも0～2歳児の保育料や学校給食費の無償化で負担感を軽減してあげることで第2子、第3子を出産する自信が生まれるのではないかと考えている。</p> <p>虐待や不登校等のこども関係の相談を受けることがあるが、家庭の問題とせずに社会全体の問題として受け止めなければならないと思う。</p> <p>3月議会においても子ども・子育て会議で出た意見や課題を取り入れさせていただきたいと考えている。</p>
山田誠次委員	<p>この会議では障害者という話はでてこないが、生まれ持った障害や発達障害等さまざまであり、障害者は立場が弱いものとなっていて生活が苦しい方も多い。</p> <p>子ども・子育て会議も以前は形式的なものを感じていたが、市の職員の姿勢も含め近年は先に進めようという気持ちを感じられるようになった。この会議で他の委員の話を聞き、本当にありがたいと思った。川越市をよりよいものにしていきたいと思っているので、今後もよろしく願いたい。</p>
小寺委員	<p>付帯意見についてまとめていただき感謝している。意見公募について、市民の方から3件の意見がでたことでどれも貴重な意見だと感じた。市の考え方としては今後検討していくとのことだが、市民が何を求めているのかをよく考えながら進めていただきたい。例えば1番目の学童の利用についての意見は、行政側としては子育て安心施設に学童の機能を持たせる方向に考えがちだと思うが、市民の方の意見としては近隣の学校で学童利用したいというのが本意であると思う。ぜひ</p>

<p>浅見委員</p>	<p>こういった考えも留意して施策の検討をしていただきたい。</p> <p>子どもたちの様子を見ると様々な家庭環境があり、個人差も大きいと感じているため、就学前の保育環境がどのように整えられていくのかというのは学校教育にも大きな影響があると感じている。家庭環境については保護者等の家庭の力だけでは解決が困難な問題もあり、行政等の力も借りながら支援していくことが重要だと考えている。私自身、学校教育という立場から健全な子どもたちの育成のために頑張っていきたい。</p>
<p>長峰委員</p>	<p>心の健康のためには安定した家庭環境が必要になるため、保健推進協議会会長としての立場からも推進していきたい。</p> <p>また、私は公民館審議委員も務めており、公民館のあり方として子どもの居場所づくりについて提案した。公民館の数も限られているため難しいかと思うが、子どものためにできることをやっていきたい。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>私は仕事の関係で 2008 年に川越に引っ越してきて、住んでみて非常に川越は住みやすいところだなと感じ、昨年末に機会があって、市制 100 周年の行事に参加させていただき、川越市の魅力を改めて再認識した。そういった中で本分科会に参加できたことは非常に嬉しく思う。</p> <p>子育て支援については、子育てのメインは親であるべきと考えている。ただ、親のためにやるものではなくて、最終的には子どものためになるものであることを忘れてはいけないと委員の皆さんの意見を聞きながら改めて強く思った。</p> <p>私の生まれたところは、時代もあって、今ほど子育ての環境も整ってなかったが、それがゆえに自分の家の子はもちろん、他の家の子も面倒を見てあげて、お互いに助け合うような環境だった。</p> <p>今回の中間年見直しに関する意見でもあったが、市への要望は様々なものがあると思うが、やはり親のための支援ではなくて、最終的に子どものためになるような支援ということを常に念頭に置いて進めていきたいと思う。</p> <p>この分科会に参加させていただいた中でも、環境変化が進み、働き方改革も進んでいく中で、コロナ禍であったり、またネット環境の加速といったところで、子どもを取り巻く環境は孤立化を招きやすい環境にシフトしているような感じがする。意見の中に言葉としても出ているが、不登校という課題が近年、非常に大きくなっているように感じている。本分科会では不登校には大きく触れることはなかったが、今後に向けてはそういったところも観点に加えて進めていければいい</p>

<p>圓岡委員</p>	<p>いと考えている。</p> <p>今、様々なご意見を聞いていても、本当に色々なことがあったなと思っている。こういう機会、それぞれ現場を持つ方々や知見を持つ方々、そして、市の所管課の方々、それぞれ日頃市民のために仕事されている方々が一堂に会し、問題を共有し合っ、そして少しでも前に進めていこうと議論をして、またこれを持ち帰って検討いただいて進めてくれたというのは本当に素晴らしいと思っている。</p> <p>個人的にこの任期を振り返って、私は公募委員として応募をして選んでいただき参加しているが、2年前に、公募のための作文を書いたとき、ようやく自分にとっての子どもの現場が持てたので、これを生かしていきたいというようなことを書いた覚えがある。</p> <p>フードパントリー事業をはじめ、寺子屋、この7月からは学習支援をベースとした子どもの居場所を運営しており、週に3回、子どもたちと一緒に遊んだり勉強したりということをしている中で、来ているのは非常に困難を抱えた子どもたち、経済的に困窮している家庭であるとか、最近是不登校の子であるとか、障害があっ、なかなか学校で勉強をしづら、というような子どもたちも来ており、そういう意味では自分の現場を市政に役立てる、そのような機会をいただいたのかなと思っている。</p> <p>この2年の間には、公立保育園の区域の見直しや数の問題があっ、それにかなり力を割いてきた。子ども・若者の居場所は、十分な議論ができなかつたところであるが、今後、新しい事業としてこども家庭センターをはじめとした事業が展開されていくようなので、これからの事業に期待している。</p> <p>誠に残念だが、次期委員の公募に応募できなかつたので、来年度からは参加できない。今後は、子ども・若者、特に若者世代の代表者を審議に入れる工夫をしてほしいと思う。</p>
<p>副会長</p>	<p>2年間、委員の皆さまにはご協力ありがとうございました。</p> <p>会長の進め方をそばで見させていただいたが、公立保育所のあり方を考えるという、とても重要かつ重いテーマについて、非常に丁寧な進め方をされていると思った。例えばワーキングチームを作って何回か議論したり、それから実際に保育を利用されている方にご意見を求めて、日曜日に会議を開催したりと非常に丁寧な形で議論を進めてくださったなというのが印象として残っている。</p> <p>個人的にこの2年間というのは、色々な方の、色々なご意見を拝聴させていただき、非常に勉強になった2年間だった。</p> <p>ただ、公立保育所の役割というものがここで3本柱ということでは</p>

会長

っきり決まったわけだが、現実的には私の保育園でも療育手帳を持つ方が何名もいるし、保護者が障害をもっている方もいて、発達がゆっくりな子どもも何人もいる。

そうした感覚でいくと、例えば民間の保育園ではなかなか保育できない方を公立保育園で全部預けるということは、おそらく現実的に難しい状況になるのではないかと予想している。

そのときに、新しいこども家庭センターなどの事業もあると思うので、公立保育園の数としては今後減っていくとは思いますが、公立保育園の先生方の貴重な経験を生かしていけるよう、市にはそういった公立保育園に勤めている方という人材を生かす道を考えていただいて、川越市として、子どもが産みやすい、成長しやすい、そして暮らしやすいまちを作っていただけるとありがたいなと感じている。

最後となるが、議事進行について、委員の皆さまの意向を全て組み取れなかった点はお詫び申し上げたいと思っている。

今回の2年間に関しては、期間が丸々コロナに重なり、せっかく策定した計画の実績にゼロが並び、事業ができないというスタートダッシュだった。こんなはずではなかったと思いながら、また会議についても開催が困難な状態で、やっとこのような話し合いができるようになったという前代未聞の状況だった。

そういった中で、皆さまにご協力いただき、こうして進めてこられたこと、大変感謝している。

こういった言い方をすると語弊があるが、このような審議会では、ともすると市の方から説明があって、シャンシャンという形で終わることが多い。また、後追いで承認するような形が多いが、そういう意味でこの会議は本当に議論ができ、委員同士で話し合い考えていくことができた。これは皆さまのおかげだと思っている。委員の皆さまがそれぞれ自分の持ち場なり立場からご発言いただくことで、実り多い議論ができ、今後に生かせると思っている。

これまで福祉を仕事にして、大学でも教えた関係もあって、子ども全体よりも、どうしても先ほど圓岡委員が言ったような困難を抱えた子どもたちのほうに目が向いてしまうというのがあり、貧困であったり、家庭に恵まれなかったり、あるいは障害を持っていたり、そういう子どもたちのほうが専門となるが、やはり、そういう子どもたちに、しっかりと支援をしてあげる必要があると思う。そして、子どもたち全体に、社会でやっていけるような、そういう環境を作ることが大事だと思う。

生まれてよかった、育ててよかったということ、子どもたち、また若者たちが実感できるようにする。そういう意味では、この2年間

事務局	<p>でそれができるとは思えない。もっと長い時間がかかると思う。ただ、そのためにもこの2年間で貴重なスタートができたと思うし、この次にまた繋げていければと思っている。</p> <p>4 その他</p> <p>[事務局からヤングケアラー実態調査について報告]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日配付資料「毎日の生活についてのアンケート調査（児童生徒向けヤングケアラー実態調査）報告書（案）」について説明。 <p>【事務局説明内容】</p> <p>（調査の目的）</p> <p>当事者自身にケアラーという自覚がない、または家族が支援を求めないなど、潜在化しやすい傾向があるヤングケアラーについて、本市の実態を把握すること、また、児童生徒のケアの状況や支援ニーズ等を把握し、必要な施策に反映していくことを目的に実施したものの。</p> <p>（調査対象）</p> <p>市立学校に通う小学校4年生から高校3年生までの児童生徒計18,214人</p> <p>（調査方法）</p> <p>オンラインによる無記名アンケート</p> <p>（調査期間）</p> <p>令和4年の9月12日～10月3日</p> <p>（調査の結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内でケアを行っている子どもは概ね14人に1人の割合となっている。（回答者3,572人のうち259人、全体の7.3%）。国の実態調査でも15人に1人程度の割合となっていることから、本市においても国と同程度の割合でケアを行う子どもが存在しているとの結果となった。 ・ケアを必要としている人は、弟や妹といった年下のきょうだいと、母親という回答が多くあった。 ・ケアの内容は、家事、そばで見守り、きょうだいの世話という回答が多くあった。 ・ケアの頻度は、ほぼ毎日が最も多く、ケアの時間は1時間未満が最も多かった。一方で、7時間以上という回答も7人いた。 ・日常生活の影響をみると、「特にない」という回答が最も多かった
-----	---

	<p>が、影響のある項目をみると「自由時間が取れない」「睡眠時間が少ない」「友達と遊べない」という回答多くあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望するサポートでも「特にない」という回答が最も多かったが、「勉強をおしえてほしい」「自分の話を聞いてほしい」「自由な時間がほしい」という回答が多くあった。 ・ケアを行っている259人のうち、ヤングケアラーという言葉を知ることがないと回答した割合は6割に上った。 ・ケアを行っていることは子ども本人にとって必ずしも悪い影響ばかりとは限らないため、ヤングケアラーという言葉がネガティブな印象を与えてしまわないように周知を広めていくとともに、子どもたちが必要としている支援については検討を行っていく必要があるものと考えている。 ・本報告書は今後さらなる整理を行ったうえで、市議会への報告を行ったのち、市ホームページで公表する予定となっている。 <p>【質問等】</p>
高倉委員	この割合だとかデータは単純集計のみということでしょうか。
事務局	<p>本日お配りした資料はクロス集計を行ったもので、ケアを行っている子どもをピックアップしたものになっている。ケアをしていない子どもからも、生活の状況などについて回答を得られているが、それらのデータについては資料編という形で正式版の方に掲載する方向で現在調整している。</p>
高倉委員	<p>なぜこのような質問をしたかということ、回答率があまり高くない、特に高校生はすごく低い。</p> <p>回答した2割はどういう子どもであるか考えると、意識のある子、あるいは答えるゆとりのある子が答えている可能性が高い。</p> <p>そういう中で、ケアをしている子とケアをしていない子の間で、生活上の支障にほとんど差がないというデータが出てしまうとか、分析を丁寧にしていかないと、数字だけがひとり歩きしてしまうのではないかという懸念がある。そのあたりは十分に留意していただきたい。</p> <p>5 閉会</p>